

Challenges drive coexistence
挑 戦 が 共 生 を 動 か す



DEAF RUGBY WORLD SEVENS JAPAN 日本2026

第3回7人制デフラグビー世界大会

10.31 (土)

11.02 (月)

11.03 (火・祝)

江東区夢の島競技場

スピアーズえどりくフィールド

秩父宮ラグビー場

入場料
無料

主催：特定非営利活動法人 日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟 共催：東京都



Equal through Rugby ～ラグビーを通しての平等～

デフラグビーとは？

デフは英語で「耳が聞こえない」の意味。デフラグビー＝聴覚障がいのある選手がプレーをするラグビーのことです。当連盟は、デフラグビーを通して、聞こえないことへの理解を社会に広め、障害による差別をなくしていくことを目指しています。また、コミュニケーションや助け合いの大切さを伝え、世界の聴覚障がい者を取り巻く環境の改善と、共に歩む「共生社会」の実現を目指しています。

一般のラグビーとの違い

ルール：	一般のラグビーと同じ
聴力基準：	両耳平均40dB以上の中等度難聴
補聴器の装用：	試合時は認められていない (人工内耳も同様)
レフリング：	笛を使わず手で合図を出す (サイレントレフリー)

「みて、わかる」サイレントレフリー

①笛(音)の代わりに旗・軍手・タオルで合図

笛(ホイッスル)の代わりに原色の旗、軍手、タオルを使用。視覚的に反則やプレイ停止を合図する世界初の革新的チャレンジ。



②声を使わずタイミングを合わせる「デフスクラム」

スクラムの合図は、レフリーの「声」ではなく「手」で確認。

- ①パー＝クラウチ(構え)
- ②グー＝バインド(組む)
- ③手を引く＝セット(ぶつかる)



③視覚的なカバー率を高める「インゴールジャッジ」

主審と副審に加え「インゴール(トライゾーン)」にも旗を持った審判を配置。選手がどこを向いていても反則やプレイ停止の旗(合図)が視界に入る仕組みを構築。



出場国

男子が11チーム、女子が6チーム出場する予定です。単独でチームを編成できない国はバーバリアンズという混合チームを結成し、多国籍チームとして出場します。



ウェールズ



日本



オーストラリア



フィジー



イングランド



中国香港



ニュージーランド



サモア



イタリア



南アフリカ共和国



バーバリアンズ

※出場国は諸事情により変更となる場合があります。最新情報は公式サイトをご確認ください。

大会スケジュール・会場

※開催日によって会場が異なります。ご注意ください。
※詳細タイムスケジュールは大会公式ウェブサイトをご確認ください。



ワールドパートナー



三機工業



吉岡株式会社



船昌商事株式会社
Funasho Shoji Co., Ltd.



まつもとペインクリニック
整形外科



大成建設
For a Lively World

SAN



助成団体



スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター



公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会

Equal through Rugby ～ラグビーを通しての平等～



JDRFU

JAPAN DEAF RUGBY
FOOTBALL UNION

(特非)日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟

ホームページは

デフラグビー

検索

協力

東京ガス株式会社

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
公益財団法人日本財団ボランティアセンター

後援

江戸川区



クラウドファンディング実施中!



大会HPはこちら

問い合わせ先: 世界大会運営委員会 事務局
Mail: info-3rd-wdr7japan@deaf-rugby.or.jp